

洋

居留地の名残が今も息づく

大阪とも京都とも異なる
ハイカラ・神戸の“粋”

慶応3年(1868)の神戸港開港以来、神戸の町には独特のハイカラ文化が根づいてきました。明治16年に「柴田音吉洋服店」を創業した初代・柴田音吉も、そんなハイカラ分化の立役者のひとり。元居留地で洋服店を開業していた英国人カペル氏に英国仕立ての技術を学び、日本人初のテーラーとなりました。以来、神戸はもとより、全国にも多くの顧客を持ち、その確かな技術は初代内閣総理大臣である伊藤博文や松下幸之助など、各界のトップリーダーたちに愛されてきたのです。手間暇かけて仕立てられるスーツは、仮縫いで1週間から10日、本縫いまでは2週間から3週間かかります。ハンドメイドは、一種のステイタス。自分のためにつくられた世界に1着のスーツが、ライフスタイルまで変えてくれるかもしれません。



現在、チーフ・カッターとして腕ふるう福澤治博さん。16歳からこの世界に弟子入りしたというベテランです。「ブリティッシュスタイルには、流行を問わない良さがありません」と、誇らしげな顔を見せてくれました。



創業当時から店にはシャンデリアが飾られ、モダンな雰囲気でした。弟子もまだ着物姿の時代、柴田音吉洋服店はハイカラ神戸の先駆的存在だったようです。

柴田音吉洋服店
神戸市中央区元町通4-2-22
TEL.078-341-1161

にっぽん目録

東北地方の皆さま、特に中小企業の経営者の方々に、心からのお見舞いと、応援メッセージを送らせていただきます。①全国からの援助だけに頼らず、「再建への不屈の執念とすべての努力は不可能を可能にします」②「スモール・イズ・ビューティフル」つまり、同じ規模を追求せず、適切なスケールにする。この2つの理念で、当社も神戸市内のビル3カ所と自宅も全壊しましたが、大震災を乗り越え、128周年を迎えることが出来ました。ファイト！東北
柴田音吉洋服店 柴田音吉(5代目社長)



JAL
いく

8時半初のJALで伊丹空港へ。最初の取材地、新長田に着いたのがちょうどお昼前。さっそく食べた好物の明石焼の美味しかったこと。鉄人28号の姿に感激しつつ市内を巡り、翌日の取材を終えようとしていた正にその時、東日本大震災の報が。さすがにこの日は全便フライト中止、翌日のJALで何とか帰京、オフィスの散乱振りに唖然とした次第。 木村政雄

羽田
空港



伊丹
空港

